

水俣の轍踏まぬため

オランダ人2人が取材

二十八日午前、東京駅に着いた水俣病患者、家族らを迎えて、その録音取材に走り回る青い目の男女がいた。

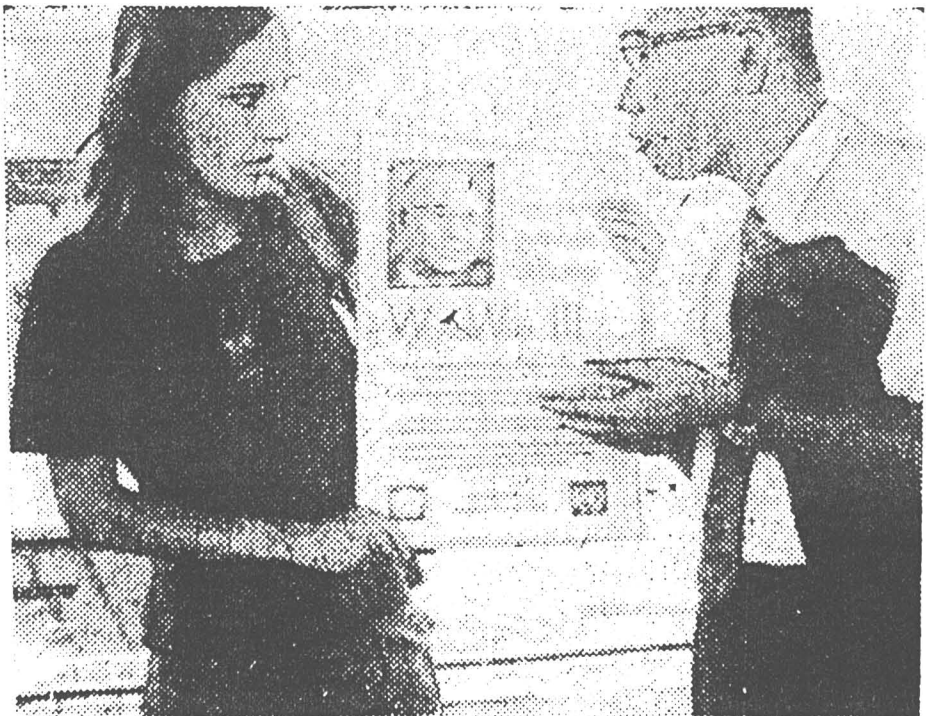
世界の公害撲滅運動キャンペーンのため二十二日、オランダのアムステルダムから来日したアンドレ・シュミットさん(四七)とトニー・デル・ハムさん(三七)。シュミットさんはかつて通信社の社長をや

ったことのある社会運動家で、トニーさんはそのよきパートナー。

「第三次世界大戦の脅威は核兵器ではなく、公害である」というウ・タント国連事務総長のことばを、いまこそわれわれは、かみしめなければならぬ」「私たちは美しいアムステルダムやロッテルダムを第二の水俣にしてはならないとの決意でがんばっている」

「きのう『水俣』の映画を見て感動した。この六日間、患者さん同行を共にして話を聞き、場合によっては水俣まで行く」と熱っぽく話していた。

二人の取材内容は、近くオランダ国営放送のラジオ、テレビを通じて放送されることになっている。
(東京支社)



熱っぽく公害撲滅を語るトニーさん(左)